

県内ワイド

情報のあて先は

元気よ、届け

日赤県支部・被災地便り



日赤県支部
総務課長
山本裕行さん

「はじめまして。片山さんという。

山ゆかりといえます。ただ、集めたものを縦一冊、横一・二冊アリゾナ・ツーソンに送る方法が分からなかつた。ネットで調べた来、メッセージを集めたり募金活動、クラフトセールなど何でもトライしています。」

日本から一万二千^キ離れた、米国アリゾナ州ツーソンから、私宛てにメールが届いた。

片山さんは、現地で日本食レストランを経営する女性。ツーソンの日本人会の仲間、岩手県陸前高田市出身の人がいて、その人の実家が全壊したと聞き、

「はじめてです。今、何となく山本さんのお力をお借りしたい」という切実な要請。すぐに返信すると、四月四日、山盛りの感謝の言葉とともに届けられたのが、メッセージがびっしり懸念に書いてくれた。

本人会の仲間である恵梨奈ホルフィンガーさんや、米国の友人たちにも呼び掛けて、義援金や物資の募集などを

と書き込まれた、一枚

が縦一冊、横一・二冊もある、二枚の大きな日の丸の旗だった。

中央には「Hope for Japan」の文字。同じ文字

真心の糸つなぐ手伝い

の友人の友人”という細い糸をたぐって私のアドレスに到達したのだそう。

「ずっずっしいこと、は承知ですが、今回、何とか山本さんのお力をお借りしたい」という切実な要請。すぐに返信すると、四月四日、山盛りの感謝の言葉とともに届けられたのが、メッセージがびっしり懸念に書いてくれた。

本人会の仲間である恵梨奈ホルフィンガーさんや、米国の友人たちにも呼び掛けて、義援金や物資の募集などを

米国からエール



米国アリゾナ州ツーソンから被災地に届いた2枚のメッセージフラッグ＝岩手県陸前高田市第一中学校で(日赤県支部提供)

き話が寄せられた。

この活動の発端となった、陸前高田市出身のツーソン日本人会のメンバ―「よっちゃん」。その友人が偶然、第一中学校避難所の身を寄せていて、こまめにフラッグを見てくれたというのだ。避難所から寄せられた感謝のメッセージが、私の元に届いた。

「よっちゃん、今朝市をつないだ、細かいけれど確かな一本の糸。そのお父さんが「アリゾナ州のツーソンから応援メッセージが届いて

るよ!」と言ったのです。えー!!! よっちゃんのいるツーソンからの寄せ書き! 読んでいて本当に涙が出てきました。テレビのない生活をしているので、世界的にどのような報道がされるのかもわからないのだけれど、寄せ書きの中には英語や韓国語もあった。励ましてくれるツーソンの皆さんに感謝の気持ちを表したいと思えます。避難所はたくさん、たくさんあるのに、高田一中に届いた。書いたかたたちにありがとうございます。と」(一部抜粋)